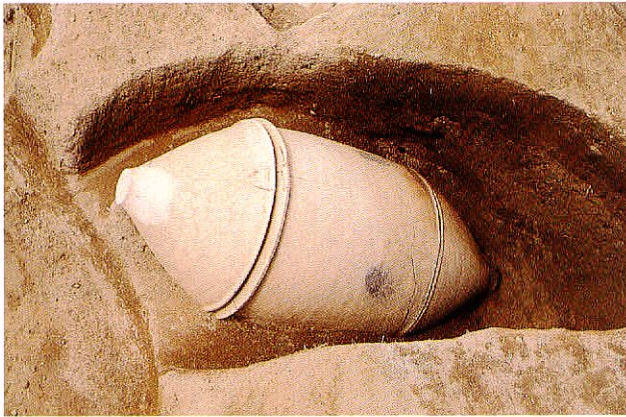


弥生時代の墓とまつり

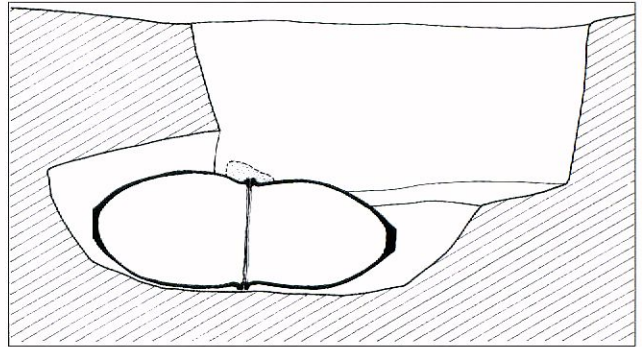
鳥栖市教育委員会



規則正しく埋葬された墓（柚比梅坂遺跡）



甕棺墓（柚比梅坂遺跡）



甕棺墓断面図



管玉を副葬した人骨（安永田遺跡）



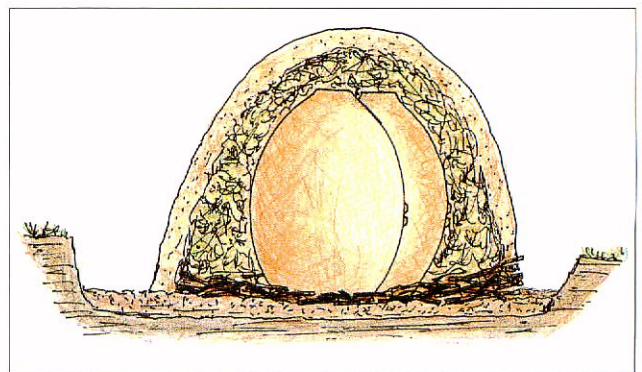
まつりの土器を捨てた穴（フケ遺跡）



甕棺を焼いていた跡（大久保遺跡）

甕棺墓^{かめかんぼ}は弥生時代の北部九州で最も多く見られる墓で、柚比遺跡群からも数多く出土しています。甕棺墓地の代表的な遺跡として、大久保遺跡^{おおくぼ}、柚比梅坂遺跡^{うめさか}、安永田遺跡^{やすながた}、フケ遺跡^{ふけ}、柚比本村遺跡^{うめびほんむら}などがあげられます。これらの中には墓に伴うまつりの跡が確認されたものもあります。また、甕棺墓の中には人骨が残っていたり、銅剣などの副葬品や貝で作った腕輪（貝輪）のような装飾品が見つかることもあります。例えば、柚比本村遺跡の甕棺墓からは赤漆玉^{あかうるし}鈕装^{ぎょく}銅装^{どう}轄^{さつ}銅剣^{どうけん}が出土しています。弥生時代の墓には、甕棺墓のほかに、石で棺を作った石棺墓^{せつかんぼ}や穴を掘って埋葬する土壙墓^{どこうぼ}、木で棺を作った木棺墓^{もくかんぼ}など様々な形態の墓があります。

これまで甕棺墓は多数みつっていますが、それを作った跡は確認されていませんでした。しかし大久保遺跡の調査によって、はじめて甕棺を焼いた跡を確認することができました。おそらくこの付近で甕棺を形作り、乾燥させていたことでしょう。この甕棺を焼いた跡は各甕棺墓地の近くにあったとおもわれます。



土器（甕棺）を焼く様子（想像図）